

<表紙よりつづく>

- 7.4 かかる状況の中で、今般の研究発表会は、先端的な養殖技術・養殖場経営手法などに関する知識と経験を発表と意見交換を通して、分かち合う場を提供する事を狙いとしており、結論として、環境にやさしい生産手法・食品の安全確保の必要性が共通認識として、参加者全員に受け入れられれば、主催者として望外の喜びである。
- 7.5 研究発表分野として、考えられるあらゆる主要課題に触れ、最新の技術進歩の現実、具体的には、養殖施設に於ける病原菌の有無、化学物質汚染や残留薬剤の有無の検証など、トレーサビリティの確保も重要項目である。
- 7.6 何れの研究発表も対象を、小規模養殖従事者に的を絞り、彼らが必要性を認識し、採用に踏み切れるようケーススタディ結果を交換しあうことを目的とする。

8. 鹿児島大学水産学部 門脇教授の研究発表:

8カ国から国・関連組織を代表する研究成果の発表の中で、群を抜いて説得力のある研究発表を実施したのは、鹿児島大学水産学部の門脇教授による「魚介類養殖施設に於ける環境保全型・複合生態系(経済性)型養殖方式の利点」という論文発表であった。

この中で、教授は、Ecoを、EcologyとEconomyの両面から捉えて、生態系を効率よく保全しつつ、養殖施設の経営効率の向上に論及するという研究成果発表は、他の全ての国・地域からの参加者の耳目を集め、賛同の大拍手を持ってワークショップの掉尾を飾った。

9. 海藻の有効活用:

ジファス海外事業の一環として、世界にその品種の豊かさを誇るインドネシアの海藻・海草の有効活用は、2007年以降の重要な柱として、既に理事会において承認されている。

今般、鹿児島大・門脇教授が参画した研究発表会に、オブザーバー出席をした藤野理事が、同教授と共に近隣のジンバラン海岸で収集した海藻のサンプルは、同事業の今後の展開に重要な位置づけとなるであろう。



▲ 2006年12月7日
インドネシア・バリ・サリスガラビーチホテルにて
門脇教授と藤野JIFAS理事



▲ 2006年12月8日
インドネシア・バリ・ジンバラン海岸において収集
された海藻類
レインボーサラタ(selada pelangi)として食卓
に提供できる日も近い
オゴのり、キリンサイ、海ぶどう、つのまた、アオサなど

インドネシア・バリにおける 環境保全型魚介類養殖管理と養殖関連食品の安全の為の 革新的技術に関わる2006年国際研究発表会に参加して



1. 期日: 2006年12月4~8日
2. 主催者: 台湾食品・肥料技術センター(FFTC)
3. 共催者: インドネシア水産省養殖研究センター(RCA)
4. 幹事役: 台湾・SHフー局長、インドネシア・スガマ局長
5. 開催地: インドネシア・バリ、サリスガラビーチホテルに於いて
6. 参加国: 日本・インドネシア・台湾・韓国・フィリピン・タイ・マレーシア
ベトナム 8カ国からの所轄省庁所属・研究者・大学教授など。
7. 開催根拠:
 - 7.1 近年、アジア太平洋地域において、各国・地域消費者の間で高品質・環境保全型・安全且つ安心を提供できる養殖製品並びに同食品に対する需要の高まりが顕著に見られる。
 - 7.2 従い、それらの要請に応えるためには、例えばHACCP等の基準に準拠するなど、あらゆる形の危害・汚染から養殖食品の安全を守り、養殖施設の環境を保全するために必要な革新的技術・経営管理手法を採用する事が、より一層重要になってきた。
 - 7.3 然しながら、養殖の現場では、小規模施設・基盤の故に、多くのケースで構造的な制約や養殖場経営手法及び疫病管理知識の欠如から低品質なもの或いは汚染された産品さえ生産され続けているのが現実である。

<裏表紙へつづく>